

◆ 中央都税事務所長賞 ◆

「子供の健康を守る税金」

中央区立日本橋中学校 3年 山口 穂華

私は、最近わずか四ヵ月の間に四回、異なる病気やケガに悩まされた。新型コロナ感染症、足の捻挫、尾骨部の打撲、そして、アレルギー性結膜炎だ。災難の連続だったが、そのたびに、病院で診療を受け、検査をしてもらい、無事に克服することができた。病院や薬局には、大変お世話になり、とても感謝している。

しかし、ふと考えてみると、病院や薬局には一円も支払っていない。本来なら、何千円も何万円もしたと思われる診療費や薬代が、全て無料だったのだ。なぜかというと、私が住んでいる中央区では、高校生以下の場合、診療費や薬代が無料になる制度があるからだ。確かに体はつらかったが、金銭的にはとても助かった。私の家族にとっては、ラッキーであった。

そう思っていたが、私は少し複雑な気持ちになった。なぜなら、これらの診療費や薬代は、税金でまかなわれているからだ。国の税金ではなく、自治体の税金から支払われているようで、自治体内の会社や居住者が負担しているという。私の家族を含め、皆が支払う税金で子供の健康を支えるという仕組みなのだ。

無料だからといって、自分の不規則な生活や、不注意な行動で健康を害するようなことがあっては、単なる税金の無駄遣いだ。実際、今回の尾骨部の打撲は、駅の階段を私の不注意で滑り落ちて強打したためで、その治療費は無駄遣いだったかもしれない、反省している。もしものときに、制度の恩恵を受けられるということはあるがありがたいことだが、それに甘えるのではなく、自分の健康は自分で守り、できる限り制度や病院のお世話にならないよう心掛けたいと思う。

ここで、制度に対する疑問が湧いた。なぜ高校生以下だけが無料なのかということだ。年齢にかかわらず、全員を無料にするのが一番良いのではないか。しかし、それでは当然、税金が足りないのだろう。対象は絞らないといけない。では、誰の健康を優先的に守るべきなのか。子供か、成人か、老人か。その答えが制度に現れている。

理由は詳しくは分からないが、大人より、自分で自身の健康を守ることが難しい子供を、より守る必要があるのだろうと推測できる。

今年に入って、私はこの制度を何気なく使ってきたが、本当なら、子供の中でも大人に近い中学生は、もっと自身の健康に気を遣った生活を心がけるべきである。そうすることで、少しでも税金の無駄を防ぎ、本当に必要としている赤ちゃんや幼児が、無料で手厚い医療サービスを受けられるようになるのではないだろうか。

今回の私に起こった、一連の病気やケガは、私にとって単に不幸であったと感じるのではなく、税の制度について、新しい見方から考え直すことができる、良い機会になった。